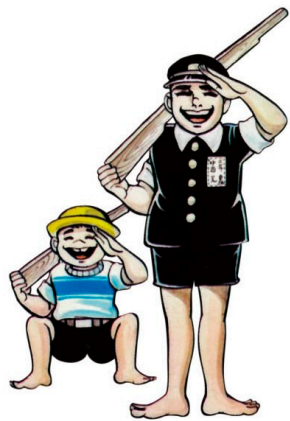






はまだ怒っている はただめげげんは



一作の漫画が、なぜ、
いまなお私たちを
熱くするのか？
その〈誕生〉から〈現在〉を
見つめるドキュメンタリー。

中沢ミサヨ 神田香織 渡部久仁子 江種祐司 阿部静子 大嶋賢洋 アラン・グリーンズ 後藤寿一 平岡敬 山本加津彦 小谷孝子
企画・監督・編集: 込山正徳 プロデューサー: 高橋良美 木村利香 共同プロデューサー: 大島新 前田亜紀 音楽: 茂野雅道 制作: 東京サウンド・プロダクション
制作協力: ネットゲン 宣伝協力: リガード 配給: アギィ 製作: BS12 トゥエルビ 2025年|90分|DCP|16:9|日本|ドキュメンタリー © BS12 トゥエルビ gen-angry.jp  

広島県知事推奨

文部科学省選定

中学校生・高等学校生・青年・成人・家庭向き



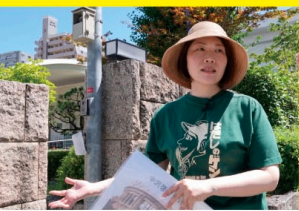
アメリカに真正面から怒り続ける少年ゲンとは？

アメリカが広島に落とした原子爆弾で被爆し、家族を失った少年ゲンが、貧困や偏見に苦しみながらも力強く生き抜く姿を描いた漫画「はだしのゲン」。主人公のモデルは6歳で原爆を体験した作者の中沢啓治さん自身です。「週刊少年ジャンプ」での連載が始まった1973年から半世紀、25ヶ国で翻訳出版され、2024年には漫画のアカデミー賞とも呼ばれるアメリカの「アイズナー賞」を受賞。手塚治虫さんや宮崎駿さんらに続き、殿堂入りを果たしました。しかしいっぽうで近年は、「描写が過激」「間違った歴史認識を植え付ける」などと、学校図書館での閲覧制限を求める声が上がったり、広島市の平和教材から消えるなどして、大きな議論を呼びました。なぜ、いまなお一作の漫画がこれほどまでに私たちを熱くするのでしょうか？



戦後80年を経ても消えることのない怒りと悲しみ、そして優しさ

本作は、メディア・アンビシャス映像部門大賞、第15回衛星放送協会オリジナル番組アワード番組部門〈ドキュメンタリー〉最優秀賞などを受賞したBS12スペシャル『「はだしのゲン」の熱伝導～原爆漫画を伝える人々～』の映画化です。監督は「春想い ～初めての収穫～」「われら百姓家族」など数々の傑作ドキュメンタリー番組を手がけてきた込山正徳。映画化に際して、込山監督を敬愛してやまない大島新（『香川1区』『国葬の日』）と前田亜紀（『NO選挙、NO LIFE』）が共同プロデューサーとして参加しました。「戦後80年」を迎えたいまもウクライナや中東では戦火が続き、核の脅威は決して過去のものではありません。映画は不朽の反戦漫画の誕生から現在を見つめ、私たちが生きているこの世界に溢れる、怒りや悲しみ、そして優しさを映し出していきます。



ライムスター 宇多丸 ラッパー
ラジオパーソナリティ
はならないのだ。
「ガ」を、つまり我々は決して、手放して
り継ごうとするこの真の「国民的マン
不愉快な現実Ⅱ歴史をこそ直視し語
識しか持てていなかったかもしれない。
まだハリウッド映画レベルの呑気な認
ものに對して、日本人の多くもまた、い
読まれていなければ……核兵器という
もし、『はだしのゲン』がこれほど広く

宮崎園子 フリーランス記者
今、わたしたちに向けられている。
もう忘れてしまったのか、再び繰り返すのか、と。

武田砂鉄 ライター
軍国主義と核兵器の犠牲になった
人々の声を背負って、怒り続けたゲン。
その居場所が、広島にすらなくなりつつある。
ゲンの怒りは嘆きにもなり、
今、わたしたちに向けられている。

内田也哉子 文筆家
小さなゲンを常に心に抱くことで、
平和ある未来は自ずと形作られるのだと思います。

「6歳の中沢さんが見た地獄」から、
私たち大人は何を学べるでしょうか。
小さなゲンを常に心に抱くことで、
平和ある未来は自ずと形作られるのだと思います。



✉@Gen_Angry_Film 📱gen.angry 📺gen_angry gen-angry.jp

- [上映貸出素材] BD・DVD・DCP
- [上映にかかるおま費用] ※◆は主催者により必要に応じて
- 上映貸出料: 1日【基本料金3万円+(入場者数×500円)】+税
(上映回数不問/入場料金設定: 自由)
- ◆会場費: 会場使用料・付帯設備使用料
- ◆映写費: 映写機材・音響機材・セッティング・技師など
- ◆宣伝費: チラシ・チケットなどの印刷代(※宣材データ貸出あり)
- ◆事務経費: 通信費・会議費・事務用品代

上映形態・規模は問いません。資料請求・ご相談・ご不明な点など、まずはお気軽にお問い合わせください。

**みなさまの地域で
自主上映をしてみませんか？**
実行委員会形式から団体・グループ・
学校・行政・公共施設…それぞれの趣
旨で、独自の上映会が企画可能！

【申込/問合せ】合同会社アギィ
Mail: info@aggie-films.jp
TEL: 03-5929-9199
FAX: 03-5929-9198
〒166-0004
東京都杉並区阿佐谷南1-13-12
ウェステルアサガヤ502